

館報

おおくま

— おもな内容 —

- 2面…誕生した親子読書会
- 3面…がんばればできる子どもに
- 4面…行事お知らせ
- 5面…夏休みを迎えて
- 6面…文芸
- 7・8面…みんなのひろば

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷



誰でも、どこでも
楽しめるクロケット

ギラギラ ギラギラ
真夏の太陽は照りつける
クロケットを楽しむ
老人の頭に
公民館の舗装の庭に
そして庭の片隅に咲く
桔梗の花にも

赤、青、黄、緑
クロケットのボールは
ゲートめざして
ゆきつもとどろつ
ままにならぬ
やがて一のゲートを潜り
二のゲート 三のゲート
試合はすすむ

一着、二着、三着
ゴールインするたびに
歓声があがる
しわくちやの顔に
歓びと笑いが溢れる
六十年、七十年
風雪に耐えてきたその白髪も
歓びに揺れる
一陣の風に汗を拭くとき
クロケットの楽しさは
かぎりなく広がる
ああ白髪の友よ、先輩よ
楽しく生きよう。

(写真はクロケットを
楽しむ高令者大学生)

公民館も三十歳 五十四年度の 事業計画を編成して

人は三十歳ともなれば誰がみて一人前である。いやむしろ働き盛りの社会的にも家庭的にも中心的存在であり、その集団の興亡の鍵をにぎる存在ですらあると思う。

昭和二十四年六月十日、社会教育法が公布施行され公民館が社会教育の中心施設として位置づけられて三十年というから公民館も漸く満三十歳の誕生日を迎えたわけである。昭和二十四年といえはあの激しくも悲惨をきわめた大東亜戦争が終って四年、戦争の傷痕いまだいえない食糧難の時代であり物資不足の時代である。国民は何をたよりに生きてよいか、「このころのやどり木」すらなく疲れきった体を引きつりながら右往左往していた時代でもある。東京へ行ってみればあの日暮里の駅から眺めるとまさに一望千里、瓦礫の焼野ヶ原、戦禍の跡とはこんなな惨めなものなのだろうか。そんな中に少しづつではあれ復興の兆しが見えてきたのが昭和二十四年だと思ふ。しかし人の心は戦禍の跡のように荒みきっていた。私たちの身近かにも史しみることでできない「平事件」が起き、つづいてあの「松川事件」が起きたのもこの年である。そんな社会情勢の中で

「社会教育法」が誕生し公民館が地域住民の学習の場として誕生したのである。役場の片隅に或いは学校の物置きを改造しそこを拠点に公民館活動が始ったのである。そして三十年、いまほどの町村においても公民館は鉄筋コンクリートに建て替えられその町、その村のシンボルでもあるかのように偉容を誇っている。しかしこの「公民館」を利用し学習しようとする意欲を燃やしている人は地域住民の何パーセントいるだろうか。あの二十四年当時の生活環境を思うときこの恵まれた時代に生きる者の幸せをしみじみ感ずると同時にマイカーを走らせ、テレビに酔いしれている私達の心に一種の「空しさ」のあることも否めないと思う。

今年度の主な公民館事業

本年度の社会教育事業推進にあたっては昨年度の事業実施の反省事項並びに社会教育法および昭和五十四年度福島県教育委員会重点施策、大熊町教育委員会重点施策に基づき、
(1)豊かな教養と正しい判断力をもつ人間、(2)個人の価値感を尊重する人間、(3)健康な人間の育成を最大目標とし生涯の各時期における要

求課題に対応し得る態勢を整備し生涯教育にあたり各種事業内容の充実を図ると共に学校教育と社会教育の連携を密にし、母と子の読書活動、高令者の健康増進、体力づくり(クロッキーの奨励)部落館との交流を深め社会教育を一層充実する方針である。

- 青少年関係
 - ・ スポーツ少年団野外研修会
 - ・ 親子読書の集い
 - ・ 剣道教室(毎週水、日曜日)
 - ・ 青年学級 二十四才まで
- 成人学級関係
 - ・ 家庭教育学級 四学級
 - ・ 婦人学級 一般家庭婦人
 - ・ 高令者大学 六十五才以上
 - ・ 家庭教育相談会
- 三才児第一子を持つ親
- 各種講座・教室関係
 - ・ 料理講座 月一(二回)
 - ・ 茶道講座 毎月第一、二、三金曜
 - ・ 華道講座 毎週水曜(月三回)
 - ・ 書道講座 毎週土曜(夜)青少年

誕生した 親と子の読書会

かねてから要望されていた「親と子の読書会」が去る七月十二日誕生した。参加希望者二十三名のうち十六名が出席第一回の集いが催された。集いは子どもを学校へ送り出し学校から帰るまでの時間帯を利用し催されたもので館長挨拶のあと懇談に入り「本を読んでいる子と読まない子」というテーマで志賀敏男先生(社会教育指導

- 民謡講座 毎週第一、三木曜(夜)
- 詩吟講座 毎月第一、三火曜(夜)
- 芸術・文化活動等
 - ・ 文化展
 - ・ 書画・盆栽・手芸等、児童・生徒の作品を一堂に展示する。十一月予定。
 - ・ 家庭劇場 舞台芸術を公演
 - ・ 文化講演会
 - ・ 民俗芸能発表会
 - ・ 宝財・ジャンガラ踊り
- 社会体育関係
 - ・ 各種少年スポーツ大会
 - ・ ソフト、バレー、野球等各種大会
 - ・ 親子体力づくり教室
 - ・ 町民体育祭。その他

等、団体の協力により発表会を開催する。十一月予定。



員)の講話を聞きそのあと今後の会の進め方についてなど話し合った。その中で次のことがきまり、会が運営されることになった。
1. 人数がそう多くないので一グループで活動する。人数が多くなつた時点で二、三グループとする。
2. 規約とか役員は自分の間つくらない。



写真は読書会の開講式

1. 一ヶ月に一回程度集いをもち、話し合い、研修の場とする。
2. 各地区に世話人を置く。
3. 読書会に対する子どもたちの魅力をもたせるため、子どもと一緒にパティや紙芝居など読書以外の行事も考えて行く。
4. 本の返し読みをするとき本の貸出し期間を十五日程度に延長する。次回は八月下旬の予定、参加希望者は公民館の係(志賀一雄)または各方の世話人に申込み下さい。
5. 下野上 猪井 純子
6. 熊新町 小林 平八
7. 小入野 飯田 良江

がんばれば できる子どもに

熊町幼稚園 藤館 静子



昨日まで雨が降っていたかと思
うと今朝は曇一つない青空、青々
と生えた芝生の上をでんぐり返り
はしゃぎまわる子ども。スベリ台
の上で小さな手をひろげ飛行機
ごとくすべりおりる子ども。もぐ
らのように右に左にと穴を掘りダ

清流

昨年の九月初め二日間にわた
る東京都交通安全母の会との交
歓研修会に参加した。研修を終
え上野解散でしたので、娘と息
子と上野公園口で待合せた。約
一時間程の時間があったが、研
修の疲れもありどこにも行かず、
銀杏の木影のベンチに腰を下ろ
し夕暮のひとときをのんびりし
た。夕日のチラチラさし込む中
に初秋の風は何とも言えない自
然の清流でした。多くの人の行
き交う姿をぼんやり眺めている
と、トラックを止めて足早やに
走ってくる若い運転手さんが思

ムづくりに汗を流す子ども。そん
な子ども達がいる背後には、教師
の上着にしがみつき、何一つ活動
しようとしないうちにもいる。こ
んな子ども達と毎日生活しながら、
子ども一人一人の個性を見つけ出
し指導することの難しさと、与え
られた仕事の重大さを感じさせら
れる。先日、保育を参観し、マッ
トやトンネル、跳び箱を使っての
活動で感じさせられた事がありま
した。四十人ちかい子どもたちが

心のふるさとを 私たちの手で

館報編集委員 木幡 キサ

いっきりジャンプをし、銀杏の枝に
手をかざした。何やらポケットに
入れて立ち去った。よく見ると葉
蔭に黄色い実がついていた。子ども
にでも自然の土産をと持ち帰った
のだろう……勝手に想像していた。
公園を廻ってきた中年の婦人が

休みなく動き回る中で二、三人の
子どもがその遊びに入らず傍観し
ていた。「どうしたの」とたずね
てみたら、前転が出来ないのだと
いう。教師が言葉かけたり、手を
とって一緒にころがったりして、
意欲をもたせるようにするがやる
うともしない。しばらく友達の手
のをみていた。三十分位たった
だろうか、足どり軽く歩き出し、
マットに手をかけにっこりと笑う。
やる気になってマットの上をころ
がり出したのである。はじめは横
にころがったりしてうまくいかな
かったが、何回となくやっっている
うちに手のつき方、まわり方の技
術を覚え上手に回る事が出来たの

やら、隣りの婦人も見つけてあれ
は公害のためです。恐ろしいで
すよと話をしている。私達は食品
公害や薬の被害、洗剤の使い方等、
婦人会の学習にとり入れているが、
都会ではこんなに身近かに被害が
出ているとは思いませんでした。

である。その時の子どもの笑った
顔。満足した顔。この時、子ども
の内にひめられた小さいながらに
素晴らしい可能性をひめた力をみ
せられた気がし、今でもあの顔が
わすれられない。
最近の子どもは「出来ない、出
来ない」と口ぐせのように言う、
やれば何一つ出来ない事は無いの
に、やろうとする意欲と根気強さ
がなくなってしまうような
気がする。何故、こんな子どもが
増えてきたのだろうか。家庭で親
が必要以上に手を出しすぎては
ないだろうか。「やり出した事は
最後までやりとおす」という習慣
づけはなされていないのだろうか。

明朝、電車の中でいわき市生
まれの七十才近い老婦人と一緒
でした。茨城に入った窓越しに
蓮根の栽培が目立った。婦人は
昔は蓮根は先行き見通しがよい
と縁起用として正月料理に欠か
せないものでしたが、現在はミ
ネラルが沢山含まれているそう
で栄養的にも良いそうですよと
教えてくれた。「年一度若い者を
代表して墓参りに故郷へ帰るの
ですが本当にいいですね。
七十年も生きたこの私が思う
のですから」この言葉は長い人
生の心の叫びではないだろうか。
恵まれた自然の中に心の故郷を
つくらねばと思いが別れた。

募 集 短歌 クラブ

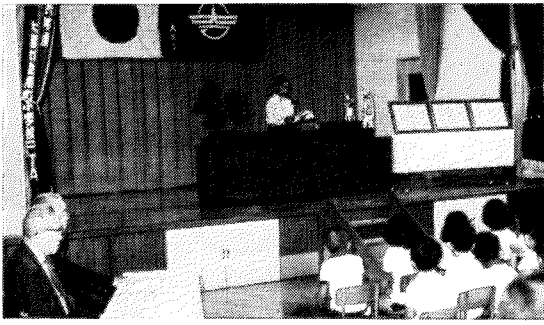
身仕度が遅いといっっては親が手
かけたり、工作などでも途中で投
げ出し、他の遊びにうつっても親
が平気で見逃している。こんな事
の積み重ねが根気のない子どもに
させてしまっているのではないよう
か。日頃幼稚園の子ども達をみる
とこんな子どもが多くなってきて
いる。出来なかつた事を出来るま
で挑戦していきける根気強い力をど
の子どもにも、もたせてやりたい
ものだと思う。出来なかつた事が
出来た時の気持ちはどんなに嬉し
い事か。そしてその嬉しさが次の
行動へのはずみ車になっていくの
だと思えます。

短歌は誰にでもできるものであ
る。歌を詠む、短歌をつくること
はなにか上流社会に生きる者のみ
がたしなむものと思われているむ
きもあるが、けつしてそうではな
い。赤い夕陽をみれば誰もが美し
いと思う。それが旅先きであれば
望郷の念に駆られるのも一入であ
ろう。母があれば母も恋しかろう。
妻や子があれば更にまたいとおし
いものである。誰にでも詩ごころ
はある。それを三十一文字に現せ
ばよいので上手へたは訓練による
ものである。公民館では短歌に志
す者のグループづくりを計画して
おります。参加ご希望の方は来る
八月二十日まで公民館の係(志賀
一雄)までお申込み下さい。多数
参加をお待ちしております。

環境緑化で 文部大臣賞を受賞 記念碑を建て祝う

熊町小学校では、全日本学校環境緑化コンクールに応募、全国四十三校の中からみごと特選に選ばれ、去る五月二十七日、愛知県藤岡市で開催された全国植樹祭の席上において、文部大臣賞、農林水産大臣賞、日本放送協会々長賞の三つの賞を授与された。また全国表彰を記念し、このほど立派な記念碑を建立、六月三十日除幕式が盛大に行われた。この記念碑は、黒みかげ石で高さ一・三メートル、幅一・七メートルの大きなもので校舎前に建てられ、記念碑には校

(写真は式典で喜びの言葉をのべる佐藤信治君(上)と熊小玄関前に建てられた記念碑)



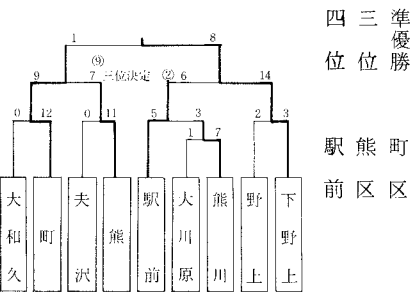
行事 お知らせ

- ◎スポーツ少年団野外研修会
期日 七月二十五日～二十六日
会場 熊川海岸キャンプ場
- ◎町村対抗野球大会
期日 八月五日(日)
会場 浪江町東中学校
- ◎成人式
期日 八月十五日(例)九時より
会場 大熊町公民館
- ◎県総合体育大会(少年ソフト)
期日 八月十日～十二日
会場 須賀川第一小学校
大小スポーツ少年団が参加
- ◎親子読書会
あづま号(県移動図書館)
- ◎スノーボード大会
期日 八月二十一日
午後二時三十分より
会場 大熊町公民館
- ◎県民スポーツ大会
期日 八月二十六日(日)
会場 大熊中学校
・壮年ソフトボール
・軟式庭球
・バトミントン
大熊町営第一体育館
・家庭バレーボール
大熊中学校体育館
- ◎町民体育祭
期日 九月二日(第一日曜日)
会場 大熊中学校庭
- ◎双葉郡総合体育大会
期日 九月十六日(日)
会場 浪江町
- ◎家庭教育相談会
子どもの教育や悩みごとなどについて、専門講師による個別相談を行う。また、講演もあわせて実施する。
期日 九月二十日(例)十時より
会場 大熊町公民館
- ◎家庭劇場(児童劇)
親子が一緒になって楽しく芸術を鑑賞する。手あそびコーナーおりがみの詩。ひも、つな、ロープ等による遊びです。
期日 九月二十五日(例)
午後一時三十分より
会場 熊町小学校体育館

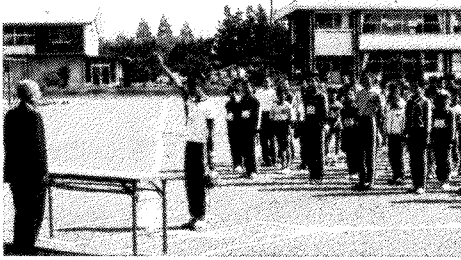
少年ソフト 下野上が二連勝

毎年実施している少年ソフトボール大会(部落対抗)は、今年で三回目を迎えました。その第三回大会が、去る六月十日、九チームが参加し、熊町小学校庭においてにぎやかに開催された。

少年ソフトボールは、年々盛んになり、子ども達のスポーツとして定着、技術面も向上し、当日は特に熱の入った試合が展開された。なお、優勝は下野上チームで二年連続優勝となった。



少年ソフトの開会式



夏休みを迎えて

みんなで守ろう 子どもの非行と事故

夏休みに入ると学校という規律的集団、規律的学習生活面からの解放感で、交通・水難・危険な遊び等の事故が多く出るので各家庭において十分指導して、絶対に事故を出さないようにしたいものです。

夏休みは、「夏の酷暑から子どもを守る」ためである。夏休みの教育的意義は

- ◆ 家族の一員としての自覚をもたせる。
 - (1) 子どもは休み中の生活・学習について心身の発達に即した計画をたてる。家族ぐるみで実践できるように一歩かけてやる。
 - (2) 家の仕事の一部分を分担させ、その仕事に責任をもたせ、「できた」を認め、ほめてやる。
 - (3) 子どもの考え、今日のできごとなど夕食後の時間を利用して、家族ぐるみで話し合いをする。
 - (4) 休みに入り二三日過ぎると「早く学校になれば……」と口に出しがちである……原因は……
- ◆ 危険から身を守ることの指導
 - (1) 水難事故の防止

個人やグループで水泳や水遊びに出かける時には必ず保護者や水泳の熟練者と同行すると共に事前に「行き先」「帰宅の予定日時」「同行者」等を家庭に知らせるよう習慣づける。水の事故はほとんど死亡事故につながるもので、水泳禁止区域場所の周知徹底、魚つりや水遊びには子どもだけでは絶対に行かせない。食後・空腹時・過労時には水に入らない。準備運動を十分したあと身体を水にぬらし静かに入る。無理無暴を避ける。
 - (2) 交通事故の防止

交通ルールを遵守させると共に次の点に留意する。

 - (イ) 自転車は事前に必ず安全点検をしてから乗る。
 - (ロ) 道路への飛び出し、車の直前直後の横断に注意する。
 - (ハ) バイク・自動車等の運転をさせないと共に「カギ」の保管を厳重に。
 - (ニ) 危険を伴う遊びについての安全指導。
 - (ホ) 特に「花火」「マッチ」「ライター」等の使用、鉄道線路付近、建築現場、材料置場、道路上での遊び、ローラースケート等に注意する。
 - (4) 非行事故の防止

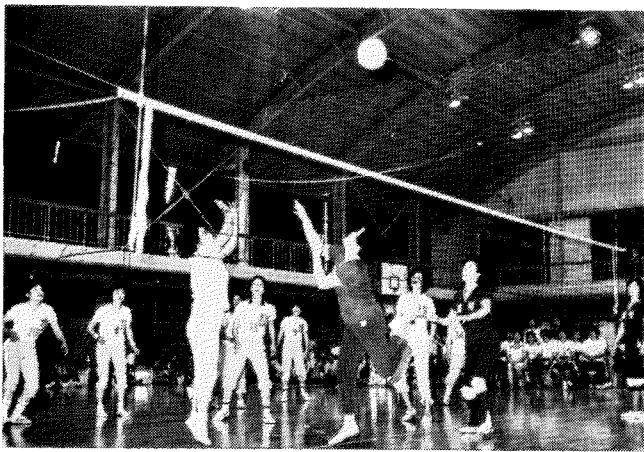
解放感と夕涼みなど、夜間外出の機会が多くなり、グループ活動が「でき心からつい手を」だし問題をこじやすい。シンナー・ボンダ遊び、不純異性交友等、低年齢化の傾向にある。非行は単に個人の責任におわらず多くの人々に迷惑をかけることを理解させ未然に非行を防止するようにつとめる。そして夏休み中におきやすい事故を地域総ぐるみで未然に防止し明るく楽しい夏休みにしたいものです。

町民体育祭採点種目

バレー・ソフトに熱戦

野上・夫沢が県大会へ参加

町民体育祭採点種目のひとつである壮年ソフトボール並びに家庭バレーボール大会は、晴天に恵まれた七月八日、大熊中学校において選手役員三〇〇名が参加し、盛会に開催された。今年度は、各チームとも平均した力量で白熱したプレーが展開され、家庭バレーは夫沢チーム、壮年ソフトは野上チームが、それぞれ優勝を飾られた。



優勝	野上
準優勝	町区
三位	小入野
家庭バレーボール	駅前
優勝	夫沢
準優勝	熊区
三位	町区

青少年に明るい社会を
毎月第三、日曜日は
家庭の日です

文芸

詩



先生のかみ

大小 松田みのり

先生のかみって すてきなあ
キラキラ光る きれいなかみ
どんな ていれを しているの
先生のかみって すてきなあ
なんちゃって 点数とっちゃおう

宿題

大小 吉田 英栄

ああ いやだな
今日も 宿題が 山ほどある
つまらない
やろうかな やめようかな
やっぱりやろう
先生におこられるよりましだもん
テレビを見るのを一本やめて
漢字を 二百二十八も書いた
明日は ほめられるぞ

短歌

高野 須美子

大熊に住みて五年経ちし今
親しみ深む人数増しぬ
風わたる青田の水はさざめきて
夕日は赤く映えるひととき

飯田 良江

暮れなずむみちのくの野辺人々は
日曜おしみて田植に励む
娘の身より熱おちそめしとぞ思ふ
食欲いでて笑みもこぼるる
風出でて庭の木々みなそよぎ立つ
葉裏白きに夕陽かがよふ

小林 かおる

ピピピと餌をついばむひな鳥を

俳句

佐久間 信子

郭公や大空の藍極まりぬ
日曜農業はらから競ふ袋掛け

木村 蓉子

春嵐五十路華やぐクラス会
亡き姉の吐息きこえし青葉かな

菅野 ミヨ

いちばつものはげしき雨の中に咲き
旅にみる紫雲英田のいろなつかしき

猪井 静枝

母の日に受けしサザナル履き惜しむ
古土蔵裏に紅梅匂ひけり

川本 裕子

鶯の声とみえて農忙し

庇いて吾に母鳥は向かう
静かなるみやこわすれの優しさは
吾娘見守る母の姿か
夕焼けに赤く咲くバラかがやきて
娘の幸を暫し祈りぬ

鎌田 清衛

早起きは三文の得と鮎釣りの
小塚の池に仏法僧を聴く
樹を敲くけら河鹿等の賑々し
朝靄に浮子ひとり立ち居り

中山 貞夫

つるばらの赤のみ赤き町に来て
尋ねし道の白く乾きぬ
峠路スクールバスにさらさらと
緑降りたり梅雨の晴間に

山吹の色のあかるき通り雨

一戸 多磨子

ガラス戸のはこりうとまし初蛙
新茶とて老舗の菓子を添えてけり
ちぎれ雲一つ遊べり五月晴
来客の度に新茶をすすめけり

永井 善子

遠足の孫につきそひ春うらら
いちにちを降い雨の牡丹かな
チューリップ散れば片附無雑作に
指先の力ゆるめばわらび折れ

高野 昭二

妊れる女桔梗生けひなの駅
紫陽花の色褪せ炭住は降りつゞく

民話

丹蔵と長い刀

豊作が予想されます。丹蔵は帰ったら稲かりをしなければなりません。

ふと後を見ると、五六人の若者たちがついて来ます。

「あの侍、あんな長い刀、どうしてぬくだろう」

「わけないさ、長いのはさやだけだもの」

「せがちっちゃいから刀だけは大さいの持ちたいだろう」

そんな話声が聞えてきました。丹蔵はだまって歩いていました。丹蔵をみくびった若者たちは益々大きい声でからかいました。

しばらくして丹蔵は「エーッ」と気合をかけた。丹蔵のはいっていたわらじは空中高く舞い上りました。そして真二つになったわらじが若者たちの前に落ちてきました。丹蔵が刀を抜いたこともわらじを切ったことも、刀をさやにおさめたことも見た人はいなかったのです。若者たちはいっせんに逃げだしました。

丹蔵は親戚からもらって来た新しいわらじをはきかえると、何事もなかったように南の方をめざして歩き出しました。秋晴れのよい天気、すずめが群れて稲の穂をついでいます。

丹蔵は居合術の名人だったので

丹蔵の里に丹蔵という侍が住んでいました。大川原は相馬の国の南の境でしたので侍だけのへんびな村でした。その侍たちは田を耕し、畑をつくり、馬を飼っていました。しかし月に何回かは訓練原で馬術をねり、講武所で武術をみがくのでした。

丹蔵の家には先祖伝来の大きな甘柿があり、秋になると、たくさん柿の実が色づきました。丹蔵はその柿を殿様にあげるため毎年、中村の町(相馬市)にゆくのを楽しみにしていました。

大きくて甘そうな柿をたくさんとって、その中から特上のものを家来に持たせてゆくのでした。

丹蔵は侍にしては小柄の方でしたが、長刀が好きでした。遠くから見ると大刀をひきずって歩いているように見えました。

中村までは十三里(五十一キロ)朝早く出ても、つるべおとしの秋のことです。丹蔵は無事柿を殿様にさし上げました。殿様からはごほうびをいただきました。

丹蔵たちは中村の親戚に一夜をあかして、翌朝弁当と新しいわらじをもらって家路をいそぎました。稲は黄金色にみのり、今年もまた



小さな節約

梅雨とはいうものの時折晴れ、仕事をすする人にとっても、主婦にとっても幸に思う。

先日旅行に出かけ、大へん楽しい思い出を持つことが出来たが、ここで学んだことの一つに、その日はちょうど三十度を越えた程の暑い日だった。その温泉地でも、このところ話題になっているエネルギー節約で冷房はなく、むしろ暑い一晩だった。でも二、三年前だったらこんな暑い日にと、お客さん達は文句をいい、ましてホテル側でもさわがれる前に冷房にしていたと思う。サービスマン満点の

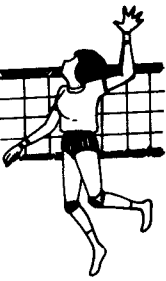
現代であったはずである。しかし現在の情勢では、ホテル側から「七月からしか冷房はいれられません」と云われれば、皆納得していたよ

また官庁にしろ、会社にしろ、何度以上にならないと冷房しないという約束もあると聞く。

また私たちが家庭でも、周りを見まわすと多少なりに節約の出来る

親睦はもとより健康の維持増進に役立っている。

大熊町ママさんバレークラブは、過般鹿島町において開催された第十回



ことがあることに気づく。ここ三年はあまりに恵まれ過ぎて、節約だなどというと窮屈に感じるであらうが、今後あまりにひどい時代を迎えないうちに私たち一人一人が考え、自主的に節約をするようにしたいものである。

あるおばあさんに「夏は風呂の水を早目にくんでおき、水の温度

近頃「豊かさ」という言葉をよく耳にしますが、広辞苑によると①みちたりたさま、不足のないさま、豊富であり、②ゆるやか、やすらかという意味だそうです。

これを自分なりに解釈すると、前者は物的量的な豊かさであり、後者は質的精神的豊かさではないでしょうか。本当に今は、物やサービスがゆたかです。国民総生産(GNP)を見ても世界で第二位だそうですが、新聞・テレビを毎日

この頃おもひごと

部においては情報洪水とまでいわれているほど情報も大変ゆたかです。テレビは一家に一台といわれて久しいし、日本全国だけでなく、世界中のどのような事件も、話題も、具体的な映像で直ちに茶の間に伝えられて来ます。新聞の販売部数においても三大紙だけで一七〇〇万部強、週刊誌その他数えたら、ぼう大なものであるうと思えます。すべてを身につけようとしても、無理なことであり、たいいてい情報は右から左へ素通りさせてしまわなければならない、情報の選別をすることは現代欠くことのできないことであり、そのことはその人の生き方、生活史とも密接な関係があるのではないのでしょうか。

私の好きなテレビ番組に、日曜夜十時より「すばらしき仲間」というのがあります。これは各界の方達が三人位で自分の今までの生活等について対談するものですが、

子どもの親のまねをする

お母さんがおせんたくをするとお母さんのそばにきておせんたくのまねをする。お父さんがお酒に酔っぱらってくると酔っぱらいのまねをする。お母さんが本を読んでいるとそばにきて本を読むまねをする。

「うちの子は本が嫌いで」とか「子どもの読書ばなれはどうしたらいのかしら」などと心配されるお母さんが多いようです。テレビのスイッチを切って静かに子どもと本を読む時間をつくってみてはいかがなものでしょうか。

日の丸をたてて国歌を歌おう

なまの人間性が感じられて大変おもしろく見えています。

いづごろのことか忘れましたが七〇才に手のとどく老女が、母のおもいで話の中で今でも何かあると、ふと「おかあさん」とさげびたくなるといわれておりました。本当にだれでも同じことであり「おかあさん」という言葉は心のふる里と思つたものです。そしていつもテレビが終つてから思うことは、心がなんとなくあたたかくなつたような気分になることです。

この頃おもひごと

大川原 一主婦

太田文代

職業と私

私は自分の職業を通じて感じたことを少し述べてみたいと思います。私の職業は、瓦の製造、販売、そして施工(通称瓦あげ)をしています。

瓦を製造するにしても、聳くにしても、昔から考えに考え抜かれたしきたりができている。それは容易に変更されるものでもないし見よう見まねで、時日を要し、親方に弟子入りし、修業をしてやっと一人前になり、覚えたものであった。現在はその科学的な技術がプラスされている。

私も、屋根が一棟葺き終り、その家の人に「どうもありがとございました。」と言われた時、嬉しさと、同時に自分の行った仕事に対しての責任の重さを感じます。そして、今後何十年も、何百年も壊れずにいてくれと祈るような気持ちです。

屋根から瓦を無くしたら、日本家屋の景観は大分変わるだろう。瓦は古代から使用され、また将来も使用され続けることだろう。

私も自分の職業を誇りに思い、これからもいろいろ経験を重ね、

社会人の優等生

齋藤 正人

先日、私は一寸した用事がありある農家を訪れました。日当りの大変よい部屋に、老人がねたきりでお嫁さんにお昼の食事をいただいている所でした。お嫁さんの何んとやさしいこと、にこにこ何んか話しかけながら一生懸命食べさせているところでした。ごく自然であたり前のことですが、なかなかできないのが世の中なのです。

何年か前のことですが、ある老婦人が話していました。「私は九

研究し、専門的な葺き方、古代の製瓦法、そして芸術的な製造へと知識を広め、精進していきたいと思っ

特に、私達若者は、先輩に劣らぬよう努力し、後輩には恥ずかしくないように、力いっぱい頑張っ

人の子どもを育てましたが、みんな教育者になり、誰も見てくれる子どもがいないので、次々と病院を変えていると。」やがて誰もが老人となり、病気になることもあ

この目で社会の優等生を見、わが事のような気持ちになり、胸がいっ

文化財を大切に

私は先日古い家を解体しました。カヤぶきの家だから棟札などはないものと思っていたら、エビス柱

のホゾに文化六年の年号がでてきました。年表で調べてみたら一七〇年前に建てられたのでした。「チ

聞く所によると川内村には民族資料等を展示する民芸館ができる

これからの人々には大切な資料となると思います。「古きをたずねて新しきを知る」と昔の人はいつ

ています。町内に残っている文化財を一品でも資料として残しておきたいと思う人は少なくないと思

今館報106号の編集を終え

編集後記

「すばらしい成果」は厳しい訓練の中から生まれるものである。家庭の厳しい訓練があつてこそ子どもを事故から非行から守られるものである。夏休みをご無事に。

館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度で一、主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。

二、政治的な色彩をもたないもの個人非難に属する抽象的でないもので常に建設的なもの。



趣味を生かして

佐光 美奈子

七月という季節は自然も人も衣替えが終り、初夏の美しさを一層感じさせる時期です。

編物を始めて二十年近くになります。その間、何百何千の方々のものを手がけてきました。しかしその作品はどれ一つとして同じものはありません。色や型は同じでもその時の条件によって微妙にできばえに表われるからです。街ゆく人のさまざま

と、つい足を止めて「ああ、よかったです。」とつぶやくこともありま

この頃は既製品も豊富になり手軽に手に入りますが、手づくりにはまた着る人の個性に合ったものができるのが何と比べても大きな

